

☆はじめに

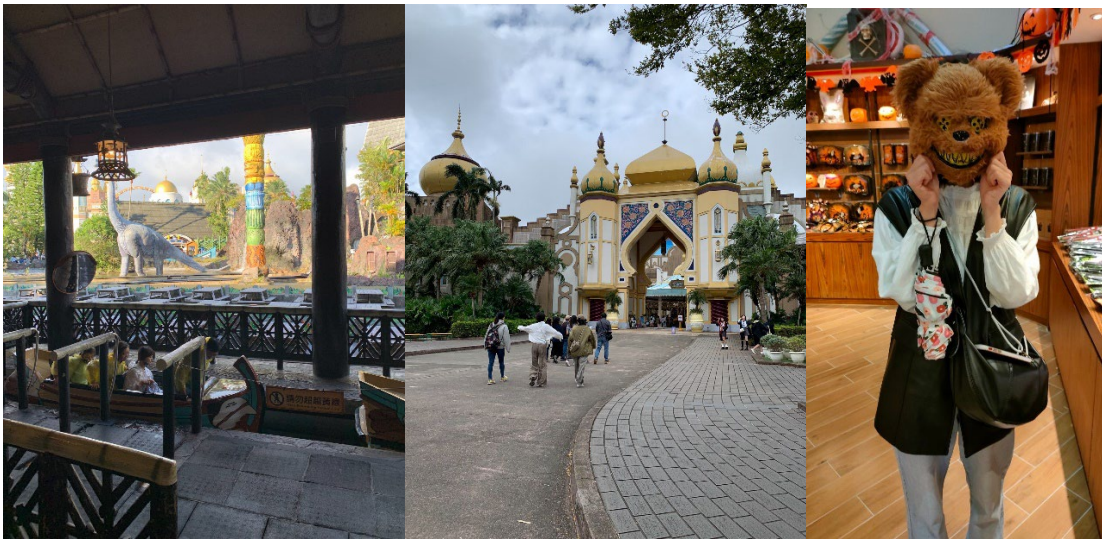
残り一ヶ月を切ってしまった留学生活、留学している間に行っておきたかった場所には全て行っておこうと思って行動した月となった。今月は新竹縣、嘉義縣、臺南市に行ってきた。

☆新竹縣，六福村主題樂園

新竹にある遊園地に行ってきた。新竹にはこの9ヶ月間の間行ったことがなかったので、初めて行くことができてよかった。私たちの住む寮から徒歩10分くらいの場所から直行バスが出ているので簡単にいくことができる。高速バスに乗車し、約1時間程度で到着。アトラクションなど何があるかあまり研究せずに行ったのだが、楽しいアトラクションがたくさんあった。絶叫系が多くて老体には響いたがたくさんのアトラクションに乗って楽しむことができた。珍しいのは遊園地内に動物園があること。サファリパークのようにトロッコやバス、空中自転車で動物を見て回ることができる。広大な土地の使い方に驚いた。

11月12日に行ったのだが、台湾では、日本のように行事が終わったら、はい次！ではなく、しばらく行事を楽しむため、この日はまだハロウィンのイベント開催中だった。

2月に台湾に来たとき、まだクリスマスツリーが飾られていたことを思い出す。



ハロウィングッズを拝借し撮った写真

☆1人旅

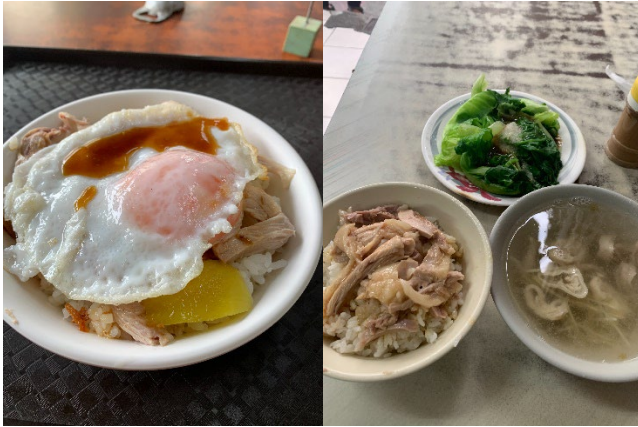
9ヶ月台湾で過ごしてみて、自分の中国語能力が一人旅をできるまでに達しているか確かめるために行こうと決意した一泊二日旅行。嘉義と台南に一人で行ってきた。

・嘉義縣，故宮博物館南院，鶏肉飯

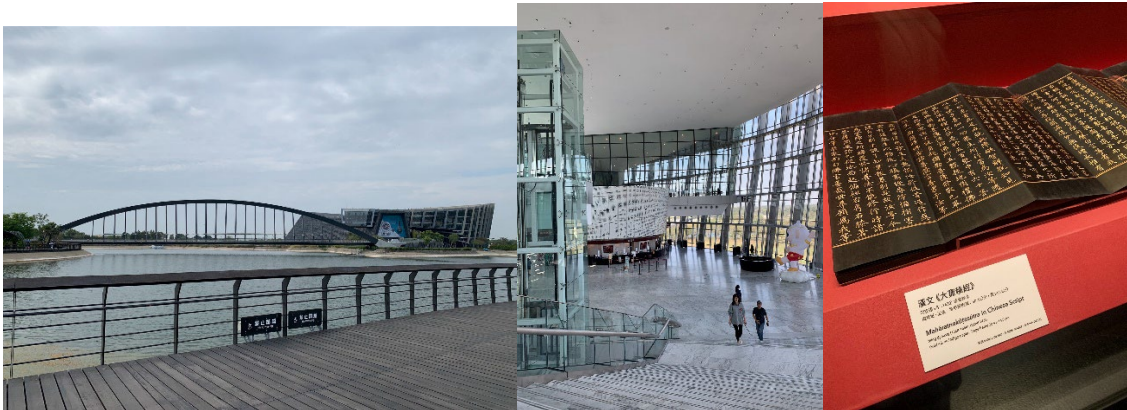
嘉義には8月下旬にも訪れたのだが、その際食べた鶏肉飯、火鶏肉片飯の味が忘れられず、もう一度嘉義を訪れることにした。昼食も夕食も鶏肉飯を食べた。台北でも鶏肉飯を食

べることはできるのだが、あの味は嘉義でしか食べることができないと思っているので、これを食べることができただけで、嘉義に行った価値があると思っている。

鶏肉飯の他にも故宮博物館（南館）に行くこともこの旅の目的であった。故宮博物館は台湾に2つあって台北にある方は、多くの観光客が訪れる場所なので皆さんも知っているかもしれないが、南にももうひとつ別館がある。2つとも規模が大きく真面目に全ての展示品を見ようとすると、4、5時間かかってしまう。それに加え、南院は広大な庭もあるので見て回るのに結構な時間を確保しておいた方がいいかもしれない。帰り際に日本からの修学旅行らしき学生たちとすれ違った。マイナーな場所だと思っていたが、修学旅行先にも選ばれることもあるようだ。ちなみに、嘉義の台湾鉄道の駅、新幹線の駅どちらからとも無料のシャトルバスがでているので便利だ。



この日は3食鶏肉飯を食べた(食べ過ぎ)



博物館の外観と内観、展示品

・臺南市，赤崁楼，臺南孔廟，牛肉湯，粽子，肉圓

台南を訪れるのはこれで3度目。1度目は4月初旬、2度目は8月下旬、今回は11月中旬である。約3ヶ月毎に訪れている場所なので、意図せず、留学の尺度を測る場所となった。自分の中国語力の上達と、まだまだな部分に気づかされる場所。留学から帰ってから台湾に行く際にも台南には訪れたいと思っている。

台南はなにせ食がおいしい。特に 4 月にいった際にどんなものか知らずに食べた牛肉湯が一番記憶に残っている。テイクアウトしようとするとうと生肉と激アツのスープだけ渡されて衝撃を受けた。今では台南に行くたびに食べる大好きな食べ物となった。

台南と台北とで味や形状、材料が違うと言われている粽子と肉圓、粽子は台北で食べたことがあったが、肉圓は台南で初めて食べたので、今度台北でも食べて食べ比べしてみたいと思う。そして台南でおなかの容量が足りず、食べることができなかった台湾人の友達おすすめの碗粿も台北に帰ってから食べてみた。友人いわく、碗粿は台湾語の読み方で注文するらしく、台湾語の読み方も教えてもらった。わーぐえいと読むらしい。ちなみに中国語読みは、わんぐお wanguo。



↑ 3 度目の正直赤崁樓。これまで台南に来る度に前を素通りした赤崁樓。初めて中に入った



← 林百貨

↑ 孔廟の内部。台湾初の孔廟はこの臺南孔廟。林百貨からほど近くなので行きやすい

ひとり旅だったため、日本語は話していない訳だが、やはり日本人のアクセントがあるの

だろう。何度も日本人だと気づかれた（ときどき韓国人とも間違えられる）。

全くと言って良いほど聞き取れなかった最初の方に比べれば中国語が伸びたことは実感できるのだが、まだまだ聞き取れない単語が出てくるので、文脈で意味を想像して受け答えをするしか無いときもある。さらに考えながら話そうとすると発音にまで頭が回らず、自分でもわかるほど片言になっている時もある。まだまだ精進のしがいがあるようだ。

残り 1 ヶ月しかないが、悔いのないように台湾での生活を送りたいし、身につけた中国語能力が落ちないように、日本に帰っても友人らと連絡を取り合ったり、先生や留学生に会話練習をお願いしたりしながら能力を維持したいと思う。

☆おわりに

台湾生活にはすっかり慣れた。そう思った頃には、もう帰国しなければいけない時期になった。来月でこの月例報告書を書くのも最後。まだこれを書くには早いかもしれないが、台湾には大変お世話になった。来月はきっといけていなかった場所を巡ったり、帰国準備をしたり、期末考査の準備で忙しくなるだろう。来月の報告書は来月のことを書くというより、10 ヶ月の留學生活の振り返りになる予定。それではまた来月。